

駒井ハルテック技報第2巻発行にあたり

代表取締役社長

田中 進



東日本大震災から一年半が経過しようとしています。計画の遅れから思うように復興は進捗していません。改めて、自然の驚異と被害の甚大さを痛感すると共に、地震国日本では、常に防災対策に配慮した建設技術への取組みが重要であることを考えさせられました。一日でも早い復興を願うと共に、当社は富津、和歌山、東北（子会社：東北鉄骨橋梁㈱）の3工場を生産拠点として全社的に鋼構造物の復興事業に携わることにより、引き続き社会的責任を果たしてまいります。

さて、2010年10月に「株式会社駒井ハルテック」がスタートして今年で2周年を迎え、このたび、合併後の技報としては2巻目となる「駒井ハルテック技報 Vol.2 2012」を発行することとなりました。この2年間、旧駒井鉄工と旧ハルテックがそれぞれ培ってきた技術の継承、統合、発展に精力的に取り組んできました。特に、今年は工場の機構改革にも着手し、製造部門としては橋梁・鉄構の垣根を取り払い、技術面でのさらなる融合を促進することで、一層の技術開発力・鋼構造総合エンジニアリング力の向上に努めています。本誌の発行は、その成果を定期的に確認するという意味も込められています。

橋梁分野では、近年重要性が増している維持管理の技術にも着目しています。新設橋梁の建設には自ずと注目が集まりますが、国内には老朽化した既設橋梁も少なくありません。こうした橋梁に対して、補修・補強を行う技術、拡幅を行う技術、架け替えを行う技術を磨くことも建設業に携わる企業には大きな責任があると考えており、本号には、関連記事も掲載しています。

鉄構分野では、BIM（Building Information Modeling）ツールの活用に以前より取り組んでおり、適用実績を重ねて参りました。これは、近年諸学会等でも注目されており、設計事務所やゼネコン等からの問い合わせや要望

も増えつつあります。異業種間での有効活用には、まだ課題も多いと言われていますが、当社としての利用技術についても本号で紹介しています。

環境分野では、ロシアでのマイクログリッドシステム導入可能性についての調査を行いました。インフラシステムの輸出促進事業は、経済産業省の戦略のひとつでもあり、当社としても期待に応えるべく尽力しています。

また、昨年度にはベトナムに駐在員事務所を開設し、海外事業をスタートさせました。橋梁・鉄構・環境事業で培った技術を、経済発展のめざましいベトナムで活用すること考えており、簡単な活動報告を掲載しています。

今年は建設業界として話題の多い年で、「東京スカイツリー®」をはじめ「東京ゲートブリッジ」「新東名」「渋谷ヒカリエ」等多くのプロジェクトが開業、開通しました。東京スカイツリー®の商業施設に、開業5日で100万人が訪れたという記録的ペースは、事業者の予想を超えるものだったようですが、それは優れた技術と施工による安全・安心の賜物と言っても過言ではないと思います。東日本大震災発生当時、建設途中でも無被害だったというのは有名な話です。当社もこれらプロジェクトに参加することができたことを誇りに思うと共に、これからも「高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する」ことを経営理念として努力してまいります。“技術”は社会のニーズに応えるべきものと考えていますので、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

なお、第2巻の発行にあたり、日頃親しくご指導いただいております千葉大学名誉教授の森田耕次先生より、ご多忙の中、ここ30年の鉄骨製作技術の変遷について寄稿いただきました。心より御礼申し上げます。懐かしいと思うと共に、過去を知ること新しい発想のヒントが隠れているかもしれないと感じました。是非、若手の技術者には一読いただきたいと思います。